

## 調 査 研 究 彙 報

**秋田県の近代化遺産総合調査(1)** 幕末～戦前の産業・土木・交通に関する遺産の総合調査が、90年度から2年度継続ではじまった。初年度は、奈文研の指導のもとに、県下各地の調査員が第1～2次調査をおこなった。第1次調査は関係遺構を網羅的にひろい出す分布調査であり、総数は全県で約1,300件にのぼる。第2次調査では、そのうちとくに重要と思われる約3分の1を対象にして、沿革や現状についてやや詳しく調査した。この成果は、『秋田県近代化遺産一覽』(秋田県教育委員会、平成3年3月)としてまとめられた。(宮本・浅川)

**長崎県福江市石田城庭園の実測調査及び修理指導** 石田城内にある旧藩主五島氏庭園(面積約6,000㎡)の実測調査を昨年度に引き続き行ない、さらに池の護岸石積み崩壊箇所などの修理指導を行なった。実測図縮尺1/40。1990年11月、12月。(高瀬、本中、杉山、小野)

**善法院庭園の実測調査** 滋賀県大津市園城寺内の善法院庭園(面積約4,000㎡)の実測調査。国指定名勝の善法院庭園は1941年の土砂崩れにより埋没していたが、1988年度から大津市教育委員会によって発掘調査が行なわれ再びその全貌をあらわした。実測図縮尺1/50。1990年9月、12月。(高瀬、本中、小野)

**居初氏庭園の実測調査** 滋賀県大津市の居初氏庭園(面積1,000㎡)は琵琶湖の眺望を最大限に生かした庭園。邸内の茶室・天然図画亭の修理にともない、庭園の実測調査を行なった。実測図縮尺1/50。1990年11月。(高瀬、本中、小野)

**仁和寺典籍文書調査** 霊宝館第1函から、従来の調査データ補足確認のための調査を行った。第1函まで完了。御経蔵第150函についても補足調査を行った。なお仁和寺の書跡目録は現在パソコン入力を継続中である。91年3月。(綾村・館野・森・渡邊)

**薬師寺典籍文書調査** 東大史料編纂所との共同調査。第16、20、23、26函の整理分類・調書作成と第16函の写真撮影を行った。各函には多量な近世文書が収められており、各函未了である。90年7月。(綾村・森)

**醍醐寺文書調査** 醍醐寺文書の写真撮影を継続中であるが、今年度は第14・15函につき実施した。90年8月。(綾村・佃・渡邊)

**文化庁所蔵品調査** 文化庁所蔵の「日本書紀第十残卷(紙背性靈集)」の写真撮影を文化庁分室にて行った。91年3月。(綾村・佃・渡邊)

**その他の文書調査** 石山寺の依頼により深密藏聖教調査に参加90年8、12月(綾村・橋本)。大覚寺調査 嵯峨美短大の依頼により聖教調査に参加91年3月(綾村・橋本・森)。

**平城宮朱雀門の復原に関する研究** 90年3月に引続き9月12日に第5回研究会を実施した。今年度は基壇の躯体を施工する年であり、その実施案を提示し委員の先生方ので了承を得た。また、再発掘の結果当初案を訂正せざるを得なくなった南辺築地大垣と朱雀門との取付き部について、築地反り三尺案と四尺案を図示し討議を重ねた結果三尺案がよからうとの感触を得た。(細見・内田)

**特別研究第一次大極殿地区復原整備のための基礎調査** 調査2年次。計画地の現況地形のデジタルマッピングを完成するとともに、C.G.による第一次大極殿・朝堂院地区の第Ⅰ期および第Ⅱ期殿舎復原景観図を作成した。以上の基礎資料を蓄積する一方、当研究所の指導委員会の先生方からなる本基礎調査の検討委員会を発足させ、第1回の会議を開催した。また、本調査が平城宮跡の将来に大きく関わることから、研究所員全員による「21世紀の平城宮跡を考える会」を開き、自由に研究所および平城宮跡の近・遠未来像について話し合った。(高瀬・本中・小野)

**特別研究発掘庭園資料収集とその成果の刊行** 昨年度に引き続き、全国の発掘庭園資料の収集を行なうとともに、それらの資料をもとに、データベース化に向けワークシートの作成を行なった。また、一部のものについてはデータ入力を行なった。(牛川・高瀬・本中・小野)

**結城廃寺の発掘調査** 茨城県結城廃寺第3次調査の指導。今年度は伽藍配置と寺域を確認するためA～D区を設けた。A区では寺域を画する大溝の西南隅とその南側で8世紀前半の竪穴住居址を、B区では東面回廊を、C区では寺域北限の大溝と僧房と推定される掘立柱建物2棟とその北側で平安時代後期の竪穴住居址を、D区では寺域東限の大溝と推定される溝とその東側で8世紀前半の竪穴住居址1棟を検出した。その結果、寺域の範囲は南北約250m、東西約180m、回廊の規模は東西幅約75m、南北幅は推定で約65mとなり、伽藍配置は法起寺式ないしは観世音寺式と推定されるに至った。1990年7月～12月。(大脇・川越・立木・岩永・花谷)

**日韓における考古遺物の材質的検討と保存法の開発研究** わが国出土の考古遺物の多くは、その系譜を大陸、及び韓半島に求めることができる。とりわけ、韓半島からは、直接もたらされたり、あるいは強い影響を受けてわが国で製作されたものが多い。その源流ともいえる韓国の出土品について、化学分析を通して、その密接な関係を明らかにする。なお、両国の気候・風土もよく似ており、したがって、遺物の劣化、風化状態も共通するところがある。そのため、これらの遺物に関する化学的保存処理法も同一次元で検討することにした。今年度は、海底出土船体などの大型木製品をはじめ、漆製品、金属製品について分析調査し、あわせて化学的処理法の検討をおこなった。(沢田・工楽・肥塚・村上)

**滋賀県大津市栗津湖底遺跡の測量** 勸励滋賀県文化財保護協会の依頼を受け、栗津湖底遺跡調査の為の基準点設置作業を行った。遺跡周辺に分布する、国土地理院の三角点、大津市の基準点を用いて、遺跡を囲む堰堤上と調査区内に基準点を増設した。それらの座標を用い、ヘリから撮った調査区の斜写真を垂直写真に変換することを試みた。(木全・松井)

**「長屋王 光と影」展の開催** 平城京長屋王邸跡の調査(1987-1990)については、『平城京長屋王邸と木簡』(吉川弘文館1991)に成果の一部を報告した。これを受けて、このたび日本経済新聞社、奈良そごう美術館と共催で表記の展覧会を奈良そごう美術館('91年2月20日-3月17日)、広島県立歴史博物館(3月23日-4月21日)、横浜そごう美術館(4月25日-5月6日)の3箇所で行った。斬新で楽しい展示は高い評価を受けたが、観客数は約6万人とやや少な目。B5版88頁の図録も合せて発行。(金子)